

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271100582		
法人名	社会福祉法人 草雲会		
事業所名	グループホーム あしたか		
所在地	島根県松江市東出雲町大字出雲郷490		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=327](http://x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成26年3月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

阿太加夜神社の参道近く、葦高の地名から「あしたか」と名づけた古民家を意識した和風平屋の建物です。ヒノキ風のお風呂に昔の小学校を思い出す廊下など、昔懐かしい雰囲気、その人らしい落ち着いた暮らしをしていただけるように支援します。個々の居室はそれぞれにさせていただきますが、共有スペースは清潔でシンプルにし、動きやすく配慮しています。隣接する法人の施設・事業所と連携し、行事などの交流を図り、ご利用者の生きがい作りを支援します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者は町内出身の人が殆どで、今までの生活を大事にし、家庭的な雰囲気の中でゆったりと、生甲斐を持って暮らせるよう「細やかな気づきと寄り添うケア」を基本方針として支援している。職員と一緒にその日の食材から献立を考え役割を持ちながら食事作りをしたり、生花、絵画、書道クラブなど趣味活動に参加し、作品を公民館祭りで展示したり、地域の人と交流し、楽しみながら生活ができるよう支援している。運営推進会議に全家族が参加できるようにその都度案内をし、出された意見を良いケアに繋がられるよう努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ワンラブワンハート」をベースに、主役は利用者：「細やかな気づきと寄り添うケアの充実」を基本方針としている。毎月のスタッフ会でケア検討し実践に努めている。	法人理念、事業所基本方針に沿って実践しているか、日々確認し合い、スタッフ会議で全職員でふり返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一法人の事業所を中心に交流会を兼ねて行事に参加し合ったり、公民館や小学校の行事に出かけている。そこで出会う方々との時間を大切にしている。	小学校の運動会や公民館の行事などに参加し地域のひとと交流している。法人の他事業所と行事を共に行い、地元の利用者と昔話をしたり、出合いをきっかけに訪問してくれる人もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事などを通して地域の方やご家族に理解していただけるよう現場での関わりやケアの方法を話したり、直接ご利用者と触れ合ったりする事で認知症の理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族全員に運営推進会議への参加を呼びかけし、交流の機会としたり、現状報告等を通して認知症の理解やケアの方針等の確認をした。いただいた意見・要望はスタッフにつなぎケアに活かしている。	日頃の生活の様子を伝え、公民館長から行事の情報をもったり、家族から出た意見などについて話し合っている。意見はスタッフ会議でケアに繋げるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターの方と運営推進会議や日頃の情報交換などで連絡し合っている。	開設当初より地域密着型事業所としてどうあるべきか話し合い協力関係を築いている。日常的にわからないことを相談したり、研修情報をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、事業所研修を実施し、現場でのケアに活かしている。日頃からスタッフのケアのあり方について話し合えるように努めている。	法人、事業所内研修を実施し、スタッフ会議で全職員が正しく理解できるよう話し合っている。「スピーチロック」をしないように職員同士気づきがあれば伝え合い、抑制をしない対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、事業所研修を実施したり、外部研修に参加しスタッフ会にて情報共有に努め、現場でのケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、事業所研修を実施したり、外部研修に参加し、スタッフ会にて情報共有に努め、現場でのケアに活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書面を読み上げ、質問や疑問については、丁寧に説明し理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に現状報告をし、合わせてご意見を聞くようにし、スタッフ会等で改善に繋げている。	運営推進会議や面会、受診時などに意見を聞いている。運営推進会議には全家族が参加できるようにその都度案内を出し、家族同士や職員と交流する場を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内担当者会やスタッフ会議で提案・意見を聞く機会を持ち、それを検討し取り入れるようにしている。	管理者は職員とコミュニケーションを図り、体調、家族状況などについても声をかけ意見を聞くよう努めている。職員の提案は会議で話し合い、行事や日々のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議等で職員の状況を報告し、就業規則の確認や改正などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握する事に努めながら、それぞれに合った研修の機会をつくるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流研修会等に参加して、意見交換や学びの場としている。研修会への参加時にも積極的に交流するようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規ご利用者に対しては、できる限り細やかに声かけしたり様子観察して、不安の解消に努め、日々様子や以前の情報を共有し、安心して暮らせよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規ご利用者のご家族に対しても、細やかに話をさせていただき、入所にあたっての不安や今後の関わり等についての要望や意見を丁寧に伺った。何かあればすぐに連絡し、関係作りに努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅でのご様子や使っておられたサービス等の状況をお聞きし必要な支援を判断し、今後の方向性も確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らしていく」というグループホームの原点を常に意識し、ご本人の出来る事、出来にくくなった事の見極めながら、寄り添うケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに連絡し、相談し合っ、ご利用者、ご家族にとって最善の方法をとれるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるように、以前通っておられたデイサービスと交流したり、住んでおられた地域にドライブしたりしている。地域行事に出かけ今までの関係性が継続出来るように配慮した。	法人の他事業所を利用している人と交流したり、出身地域にドライブするなど支援している。帰宅願望の強い人が知人に声をかけられ生き生きしたり、神社に参拝して落ち着くなど、支援する中で利用者の理解が深まった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規ご利用者やトラブルがあった方等に席順の配慮や職員と一緒にいることで、会話のきっかけを作る等で交流できるように努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のご様子を伺う為に見舞いに行ったり、ご家族に連絡を取ったりして、関係の継続に努め、今後の事にも相談可能である事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活の維持を目指して、日常での関わりからご本人の思いや要望を受け止めたり、ご家族からの情報を頂くなどした。	個別の関わりを大切にしその日の思いをくみとることができるよう部屋でゆっくり話を聞いている。利用者の言葉を詳細に記録し、スタッフ会議で検討し、意向をケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からのお話をベースに、在宅時のご様子などを情報収集して、スタッフ会などで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態把握に努め、役割や手伝いなど無理なく一日を過ごしていただけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の確認をスタッフ会で行い、日々の関わりの中でのご本人の会話やスタッフの気づきなどを聞いたり、モニタリングでの結果を介護計画に反映させている。	原案をもとにスタッフ会議で話し合って介護計画を作成し、毎月モニタリングをしている。状態変化時や家族の希望があればその都度見直しプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録の記入を工夫することで、個々の動きや変化を共有しやすくなった。申し送り等でタイムリーな情報共有に努め、介護計画のつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族との関係性も様々であり、ご利用者にとって最善と思える支援の方法に努めている。法人内の各職種に協力してもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの関わりにより、お茶会、生花、習字、絵画、犬とのふれあいなどを実施している。それぞれの関わりに笑顔がみられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、かかりつけ医は在宅時と同様の先生に継続してお願いするようにしている。協力医との連絡も含め必要な医療が確保できるように、家族と情報共有している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は基本的には家族に依頼しているが、困難な場合は支援している。往診時は家族に同席を依頼し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調不良時には、隣接している法人関係の看護師に協力をもらい、状況判断のアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、速やかにグループホームでの状況を情報提供し、安定した入院生活が送れるようにし、また早期の退院を目指してご家族と受け入れについて相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に将来的な方向性を伺い、必要により特養への入所申し込みを提案するなど、ご家族の意向を踏まえて話しをしている。ターミナルケアについても方向性を話し合っているが結論には至っていない。	利用者、家族の意向を確認しながら、状況に応じて主治医、関係者で話し合い方針を決め支援している。ターミナルケアの希望もあるが、現在全職員で学習を重ね検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救急法の研修に参加した。AED使用方法についても実施したが、「あしたか」への導入は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「あしたか」独自の避難訓練を実施した。地域の協力体制は隣接する法人施設に依存しており、独自の体制はできていない。	年2回、法人と合同訓練を行い、事業所独自の火災想定訓練も利用者と一緒に行った。火元を伝えることとか、声の大きさなどの課題を共有している。	事業所独自の訓練を繰り返し行われることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護や接遇などの研修を通して、人格尊重やプライバシーの確保は学んでいる。完全に意識されているとは言えない事もあり、適時注意し改善の指導はしている。	利用者が在室時に部屋に入る、排泄の声かけに配慮するなど、一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能なかぎり何か行動を起こす時に、ご本人の意向を確認したり、選択出来るように努めている。普段から会話の中でご本人の気持ちを察するように関わるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人の希望を優先するようにはしている。状況によりすぐに対応できない事もあるが、そのような場合はきちんとお話するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのこだわりや添えるように努めている。着替える衣類の選択をしていただいたり、その方らしい身だしなみを意識して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材で会話を促したり、お好みのもので食べやすい工夫をしている。徐々に調理に参加できる方が減っているため出来る事を選びながら声かけするようにしている。	一緒に献立を考えたりできることをしてもらっている。利用者同士会話が弾むように席の配置を工夫し、利用者のペースでゆっくりと食事を楽しめるよう、職員も同じテーブルを囲み支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方や体重増加傾向の方などへの配慮や食べにくい方へのキザミ食、苦手食材の代替などの提供をした。水分摂取量には、常に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけは実施しているが、夕食後の口腔ケアはきちんとできたが、毎食後の実施は出来ていない。義歯の消毒は定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを共有し、個々の排泄状況が悪化しないように努めた。失禁などの出現には、すぐに紙パンツやパットの導入ではなく、定時誘導などに努めている。	排泄パターンや利用者の様子を見て声をかけ、トイレまでの移動、パット使用などできることはしてもらい、利用者に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方の排便状況を確認し、必要に応じて下剤の服用を行った。食事内容に食物繊維の多いものを取り入れるなどの工夫もした。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を長く設定し、希望の時間に入浴できるようにしている。個々の要望も受け止め、適切な入浴時間や回数に応じるようしている。排泄の失敗が多くなり交換に拒否的な方に適時入浴を実施しているケースもある。	希望や状態に合わせて支援している。毎日入浴する人もいる。浴槽に入ることが困難な人は法人内のデイサービスのリフト浴を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず、それぞれのご利用者に合わせて、ゆったりと過ごしていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを作成し、個々の薬の情報がわかるようにしている。受診後、ご家族より情報をいただき、薬が変わればその薬効がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者やご家族からのお話や日々の関わりの中で今までの楽しみや得意だった事を情報収集し、関わりにつなげるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添うようにしているが、悪天候や寒い時期など、また職員配置により出来ない事もあった。出来なかった時はなるべく早い時期に実現できるようにしたが、十分とは言えない。	散歩や、公民館のお茶会、町内ドライブなどに出かけている。「イルミネーションを見に行きたい」との声を聞き、夜間ドライブに出かけたこともある。職員はより外出の機会を増やしたいと次年度の計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭についてはご家族の判断で財布を持たれている。生花代等を支払われている方もいるが、財布の置き場所を忘れられる方もあり、ご家族と相談しながら、トラブルにならないように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、ご家族や知人への電話の支援を行った。身元引受人が遠方の方には、定期的な声かけにより希望されなくても実施している。手紙についてはあまり出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努め、清潔感のある環境を維持していくようにした。季節、時期がわかるような飾りや行事を実施した。	和風の照明器具や障子があり昔懐かしい落ち着いた空間で、季節感を取り入れながら清潔な環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席はだいたい決めているが、固定したい訳ではなく、ご利用者同士の交流も含め臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品を持ってきていただき、安心して暮らしていける居場所作りをしていけるようにご家族にお願いしている。	利用者に合わせ家族の写真や時計、自作の塗り絵やカレンダーが飾られている。家族が面会時にゆっくり過ごせるよう椅子やテーブルが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を大切にに関わり、出来そうな事にも挑戦していけるようにしているようにスタッフ会などで情報共有し、成功時にはみんなで喜び、次につないでいけるようにしている。		